

平成29年4月1日現在

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表]

機関名	熊本大学	整理番号	I02
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) はらだ しんじ 氏名・職名 原田 信志 (熊本大学学長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) あんどう ゆきお 氏名・職名 安東 由喜雄 (大学院医学教育部・医学専攻・教授)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) おぐら てる 氏名・職名 小椋 光 (大学院医学教育部・医学専攻・教授)		
4. 類型	I<複合領域型(生命健康)>		
5.	プログラム名称	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラムHIGO	
	英語名称	HIGO (Health life science: Interdisciplinary and Glocal Oriented) Program	
	副題	健康生命科学パイオニアHLSP (Health Life Science Pioneer) の養成	
6. 授与する博士 学位分野・名称	博士(健康生命科学)、博士(医学)、博士(生命科学)、博士(薬学)、博士(薬科学)		
7. 主要分科	(① 基礎医学) (② 薬学) (③ 政治学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
8. 主要細目	神経科学一般、生理学一般、医化学一般、病態医化学、人体病理学、分子生物学、細胞生物学、発生生物学、化学系薬学、物理系薬学、生物系薬学、創薬化学、医療系薬学、代謝学、内科学一般、免疫学、小児科学、人類遺伝学、公衆衛生学・健康科学、腫瘍生物学、発がん、ゲノム医科学、哲学・倫理学、外国語教育、政治学、経済政策、経営学、社会学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	医学教育部医科学専攻(修士課程)、医学教育部医学専攻(博士課程)、 薬学教育部博士前期課程 創薬・生命薬科学専攻、 薬学教育部博士後期課程 創薬・生命薬科学専攻、 薬学教育部博士課程 医療薬学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	熊本県、熊本市、同仁化学研究所(株)、熊本日日新聞社、熊本商工会議所、熊本経済同友会、九州地域バイオクラスター推進協議会		

14. プログラム担当者の構成 計 41 名					
外国人の人数		3 人	[7.3 %]	女性の人数	
				9 人 [21.9 %]	
プログラム実施大学に属する者の割合 [78.0 %]					
プログラム実施大学に属する者			32 人	プログラム実施大学以外に属する者	
そのうち、他大学等を経験したことのある者			26 人	そのうち、大学等以外に属する者	
				7 人	
15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成29年度における役割)
(プログラム責任者)					
安東 由喜雄	アンドウ ユキオ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	統括責任者
(プログラムコーディネーター)					
小椋 光	オクラ ヒカル		大学院医学教育部・医学専攻・教授	理学博士	プログラムの企画・運営の総括
竹屋 元裕	タケヤ モトヒロ		理事・副学長	医学博士	プログラムの点検・改善
中尾 光善	ナカオ ミツヨシ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	行政連携 産業界連携
富澤 一仁	トミザワ カズヒト		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(医学)	プログラム・カリキュラムの編成・点検・改善
大塚 雅巳	オオツカ マサミ		大学院薬学教育部・創薬・生命薬科学専攻・教授	薬学博士	行政・企業インターンシップ
甲斐 広文	カイヒロミ		大学院薬学教育部・創薬・生命薬科学専攻・教授	薬学博士	海外コーディネート、創薬研究指導
上野 眞也	ウエノ シンヤ		政策創造研究教育センター・教授	博士(公共政策学)	公共政策教育 行政コーディネート
西中村 隆一	ニシナカムラ リウイチ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(医学)	プログラムの点検・改善 行政連携 広報
小川 峰太郎	オガワ ミネ太郎		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(薬学)	プログラムの点検・改善、カリキュラムの編成・運営
宋 文杰	ソウ ブンケツ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	工学博士	カリキュラムの編成・評価 国際連携 広報
太田 訓正	オオタ ケンマサ		大学院医学教育部・医学専攻・准教授	博士(理学)	プログラム・カリキュラムの点検・改善、国際連携
荒木 栄一	アラキ イチ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	行政連携
山縣 和也	ヤマガタ カズヤ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	行政連携 留学生支援
加藤 貴彦	カトウ キヒコ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	医学博士	行政連携 産業界連携
尾池 雄一	オイケ ユウイチ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(医学)	産業界連携
西谷 陽子	ニシタニ ヨウコ		大学院医学教育部・医学専攻・教授	博士(医学)	行政連携
入江 徹美	イリエ テツミ		大学院薬学教育部・医療薬学専攻・教授	薬学博士	行政インターンシップ、臨床研究指導 薬学専門講義
山縣 ゆり子	ヤマガタ ユリコ		大学院薬学教育部・創薬・生命薬科学専攻・教授	薬学博士	海外・企業インターンシップ、創薬研究指導 薬学基礎講義
有馬 英俊	アリマ ヒデトシ		大学院薬学教育部・医療薬学専攻・教授	薬学博士	海外・企業インターンシップ、創薬研究指導 薬学基礎講義
丸山 徹	マルヤマ トオル		大学院薬学教育部・医療薬学専攻・教授	薬学博士	企業インターンシップ、創薬・臨床研究指導 薬学専門講義
今井 輝子	イマイ ヒロコ		薬学部・特任教授	薬学博士	産業界連携
大槻 純男	オオツキ スミオ		大学院薬学教育部・創薬・生命薬科学専攻・教授	博士(薬学)	産業界連携
石原 明子	イシハラ アキコ		大学院社会文化科学研究科・准教授	文学修士	公共政策教育
高橋 隆雄	タカハシ タカオ		大学院先導機構・客員教授、名誉教授	博士(文学)	社会文化科学教育のコーディネート

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【プログラムの概要】「グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO」

人類の健康増進に繋がる生命科学が急速に展開し、専門化・細分化されていることから、その成果を社会全体に分かりやすく波及することが重要である。「HIGO (Health life science: Interdisciplinary and Global Oriented) プログラム」は、医学・薬学等を基盤とする健康生命科学の専門的知識と研究マインドをもち、九州という地域性と世界観(主にアジア)を連結した国際・地域社会(グローバル社会)における課題とニーズを捉えて、健康増進と疾病対策のために最新の知見と科学技術を活用する次代の医療人・専門職業人を養成する。医学・薬学・生命科学等から要点を抽出・集約して「健康生命科学パイオニア HLSP (Health Life Science Pioneer)」コースを新設し、これらの専門的な理解に加えて、人と社会と自然に関する総合的な知識や情報を積極的に習得することで、真に世界に貢献できる学識と応用能力を獲得する。とりわけ、熊本大学と熊本県・熊本市が一体となった「グローバル社会文化科学 GSCS (Global Social and Culture Science)」を通して、アジアと九州、歴史と文化、政治・経済・社会と生命倫理などを理解し、健康生命科学をグローバル社会の中に位置づける。この有機的に統合した斬新な大学院コースを設置し、国際的・地際的・学際的な視野と思考力に基づき、世界と地域の諸課題を自ら発見・行動・解決できるグローバル社会リーダーHLSPの輩出を実現するものである。

【特色】1. グローバル社会への貢献を目指した大学・行政・産業界の連携

従来の理系大学院人材は、高い専門性と欧米指向のため、地域社会やアジアに対する意識が希薄になりがちであった。しかし、科学技術が進歩する現代社会にこそ、総合的な知識と合理的判断力をもつ理系人材が不可欠である。ここで若い世代がリーダーとして活躍するには、地域や世界の人々と協働して、課題解決に自在に挑戦することが必要である。熊本大学は熊本県・熊本市と一体として「くまもと都市戦略会議」「熊本上海オフィス」の運営などの公共政策形成や社会活動を展開しており、とくに医療・教育・食糧・観光でアジアへの取組みを重視している。健康増進と疾病対策を先導するリーダーには、専門的な知識・技術に加えて、健康・医療と密接に関わる生活圏の理解が不可欠であり、産学官が一体になった HIGO プログラムで初めてそれは可能になる。行政及び地域・企業と連携することで、実践的な GSCS 教育が実施できる。県庁、市役所、上海オフィスや企業など、行政・産業界・海外へのインターンシップを導入し、我が国の産学官が連携して、地域、そしてアジア諸国に重点を置きながら、世界水準で国際社会に展開する中核的リーダーを育成する。

2. 最先端かつ国際最高水準の健康生命科学プログラム

熊本大学大学院の医学教育部と薬学教育部は常に協働しており、その構成員である発生医学研究所及びエイズ学研究センターは2つのグローバル COE 拠点の中軸である。この基盤の上に、医学・薬学・生命科学及び GSCS で構成する HLSP コースを開設する。デュアル・メンター制及び研究室ローテーションによる多角的視野の養成、e ラーニングシステムによる知識の効率的な習得を図る。国内外からポテンシャルのある大学院生を集結させて、彼らが切磋琢磨する学際的な大部屋教育を行ない、国際感覚と総合知識を涵養する。本学に「国際先端医学研究拠点施設」が平成25年度に建設され、生命資源研究・支援センター等の設備を使用し、研究支援を受けることができる。近年の外国人留学生の増加に伴い、上記 COE 拠点では授業やセミナーの完全英語化を達成している。本プログラムでは、外国人留学生の比率をさらに4割程度を目標にかかげ、日本に居ながら実践的な国際化を目指す。大学・社会が一体となって、地域と世界で実働するリーダー育成環境に努める。

【優位性】

熊本大学は全学的に大学院教育と先端研究を推進する「大学院先導機構」を設置し、新たなパラダイムを描きながら各研究領域における大学改革を図っている。これまで、21世紀COEプログラム2件、グローバルCOEプログラム3件、組織的な大学院教育改革推進プログラム2件等を実施し、生命科学領域では「細胞系譜制御」、「エイズ感染防御」、「発生再生・代謝循環」において顕著な実績を挙げている。発生医学研究所は、全国共同利用・共同研究拠点事業の「発生医学の共同研究拠点」であり、エイズ学研究センターと生命資源研究・支援センターは各々の先端研究拠点である。さらに、国際化推進センター(平成27年3月から「グローバル教育カレッジ」へ改組)、eラーニング推進機構(平成29年4月から「教授システム学研究センター」へ改組)、イノベーション推進機構(平成29年4月から「熊本大学熊本創生推進機構 くまもと地方産業創生センター」へ改組)等の技術経営コースによる企業インターンシップ、社会文化科学研究科プログラムなどが整っている。本プログラムは、本学の学長を中心とする強固なマネジメント体制のもと、熊本県・熊本市、産業界が共同する HIGO プログラムを社会的に新展開する新規性と優位性がある。

学位プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、学位プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)

